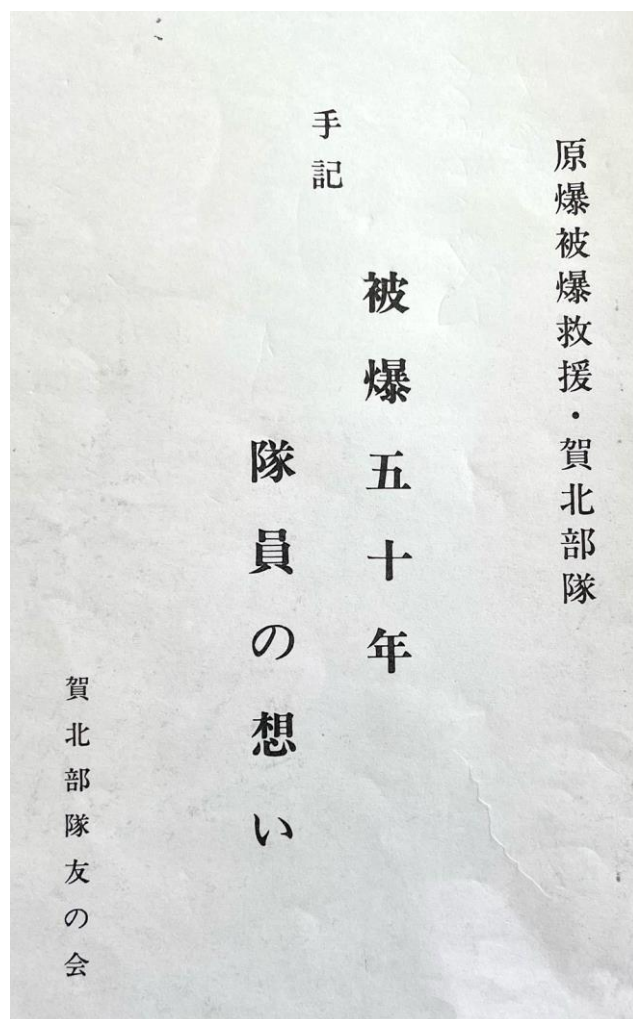


「手記 被爆五十年隊員の想い」 賀北部隊友の会



賀北部隊は、戦況の悪化そして本土決戦間近とみられた昭和20年5月に創設された特設警備隊の一つで、賀茂郡北部地区（西条，高屋，八本松，志和，上黒瀬の各町村）に在郷する陸軍予備兵役軍人の一部と17・18歳の青年男子で編成。仮本部は西条農学校北寮に置かれた。隊員の中には西条農学校の学徒も存在していた。

原爆投下の8月6日夕刻から深夜にかけて、被爆者の救援活動や警備を目的として召集され、約250名の隊員が順次入市。爆心地に近い広島城から西練兵場そして天満国民学校付近で活動にあたった。

原爆投下から50年を経て、被爆の実相や過酷な救援活動の真実を語り継ぐため、「賀北部隊友の会」によって元隊員からの手記がまとめられ、平成7年（1995年）11月に発行された。